

校長通信「学ばん共に」



その13「急がず慌てず自分のペースで」

(はたちのつどい あいさつ) (2023/1/8)

▶「はたちのつどい」…素晴らしい門出の会に集まったみなさん、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。

▶みなさんの表情は目元だけしか見えませんが、晴れやかで眩しいです。日本の未来、浜松のこれからは明るいなと感じます。こちらに真っすぐ伸びた視線に強さを感じます。

▶ところでみなさん…現在の心持ちはいかがでしょうか。大人の仲間入りをすると気負いよりも、久々の故郷、可美での旧友との再会に心が沸き立つというのが、正直なところかもしれませぬ。

▶しかし、大きな節目ですので、みなさんが過ごした二十年の軌跡を、これまでみなさんを支えてくださったご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ思い返し、噛みしめていただければと思います。

▶中学時代を思い返すために卒業アルバムを久しぶりに、開いた方もいるのではないのでしょうか。卒業アルバムは、思い出のつまんだ宝物だと思います。嬉しいことですが、その宝物に「先生、一言メッセージを書いてください。」と頼まれる時が私にもありました。そんな時はよくこんな言葉を書きました。「夢追う人に 光あれ」…三十数年間…ほぼ同じことを書いています。それは、夢を追うこと、夢を探ること、夢を支えることが…人としての生きがいや大きなエネルギーになると信じているからです。そして、実際に夢を追う人が幾多の困難を乗り越え、自分の道を自分の力で進む姿を目にできたからです。みなさん、是非、自分の夢を見つけ、自ら一步を踏み出していただければと思います。急がず慌てず自分のペースでいいと思います。

▶本日みなさんの中学時代、可美中に勤めていた先生方があちらに何人かいらっしゃいます。3年生の主任だった先生に伺ったところ、「しっかり者の女子。元気な男子。穏やかな人柄の生徒が多く、大変温かい学年だった」ということでした。2部では、先生方から楽しいお話をいただけることでしょうか。楽しみにしてください。

▶結びとなりますが、みなさんのこれからと、ご家族の皆様にも幸多かれとご祈念申し上げ、私からの祝辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

.....

急に来られなくなった来賓の代わりに、急遽引き受けたスピーチでした。直接は面識のない可美中出身の新成人を前にうまく話せたかどうか、あまり自信はありません。

しかし、背筋を伸ばし、私の方を真剣に見つめる眼差しの多くから、希望に満ちた力強い光を感じました。「美しかるべき里」で育った若人たちに、たくましさや爽やかさをみてとることができました。とても清々しい「はたちのつどい」でした。

18歳で成人を迎える新しい法律になりましたが、高校3年生では何かピンとこない部分が正直あります。そうした中、このようなセレモニーに参加することで、自覚や決意をもち、感謝の気持ちを抱くことができたらいいなと感じます。

新成人の代表が実行委員を務めていましたが、自治会役員やPTA役員も受付や案内などをされていました。地域の方の温かい支えがあってこそ成り立つ、人生の節目を演出する歴史のある儀式だと思えます。

ピリッとした空気の流れる「はたちのつどい」…今の可美中生たちが数年後にこの会に参加することに思いを巡らせつつ、会場を後にしました。
(北村健治)